

ビジネスを する理由





ビジネスにする理由は？

行政に100%「おんぶにだっこ」というボランティア活動は疑問。
 申請する側と行政の側の視点の違い。
 持ちつ持たれつでやるという意識がない。
 自分たちで稼ぐことが大切。
 食材を商店街から仕入れて、商店街への弁当宅配をした。
 コンビニの商品も受け入れて、自転車で配達した。
 庭掃除、草むしり、ガラス窓のふき掃除などの注文を、ヤクルトの販売の人にチェックしてもらった。
 行政の補助金は、最高で3年で、ほかの要件がついている。
 販売するものを入れられない。
 一方で、お金を出し過ぎと感ずることもある。行政のアリバイ作りと感ずることもある。

ビジネスモデルが出てくる。
対価を求める地域活動は悪くない。
地域の人がよいと思ったら、それでよい。
責任感がついてくる。
ふるさと納税は 素晴らしい件数だった。
一般の人との距離が近くなる。
「えっ、あの人が」という人からの寄付がある。
荷が重いということはある。
人としてつながって追いかけるための手段。
野草が安曇野での勉強会に広がった。 →笑顔で暮らせる。
ビジネスとはお金が入ってくること。
「市民活動ですから」と言って逃げられない。
ボランティアの「してあげている」という上から目線。

ビジネスをする理由

① 行政に100%頼ってはいけない。

② 対価を求める地域活動は悪くない。

③ ビジネスは「人としてつながって追いかけるための手段」。

④ ビジネスだと、「市民活動ですから」といって逃げられない。ボランティアであっても、責任をもってやる必要がある。行政のシステムだと切り捨てられることがある。ボランティアの「してあげている」という上から目線もいやだ。

「ビジネスをする理由」のポイント